

新研究の付属教材を活用した反復学習で「わかる喜び」を 大分県での「新研究」＋付属教材＋実力テストの使用事例

大分県では、「新研究」を柱に、ノートや付属教材を活用することで反復学習をする学校が多くある。(大分県の「中学校あるある」として、新聞に「新研究」の学習が取り上げられるほどの浸透ぶりである。)
今回は、「5教科セット」「新研究」と「付属ノート」「付属チェック教材」「実力テスト」を組み合わせた反復学習を行っている大分市大在中学校の実践事例を紹介する。大在中学校では、1年次から日々のノート指導を行っており、その延長で進学教材指導も行っている。

① 1・2年次 日々のノート指導 「マラソンノート」

「マラソンノート」は、日課表、一言日記、フリースペースで構成した大在中学校オリジナルの生活ノートである。1年生のうちから、毎日この見開きを埋めることが宿題とされている。問題集を解いた答えを書いたり、単語練習をしたり、その日に学習したことを自分でまとめ直したり、といったことを各自で考えて取り組んでいる。

② 2年3学期 「新研究」学習スタート

2年生の3月ごろに「新研究」本誌5教科と付属ノート、「新研究」を使った学習スケジュールを配付し、「新研究」学習がスタート。

●学習の進め方

「新研究」の解説ページを15分かけて読む。

重要なところに線を引いたり、付属ノートにまとめたりします

「新研究」A問題とB問題を1時間で解く。

付属ノートに解きます

答え合わせをして、間違えた問題は「新研究」のチェックボックスにチェック。

間違えた問題を「マラソンノート」の左ページに書き直し、右ページには自分で考えた学習を行う。約1時間。

☀朝学習

「新研究」の付属チェック教材に15分で取り組む。

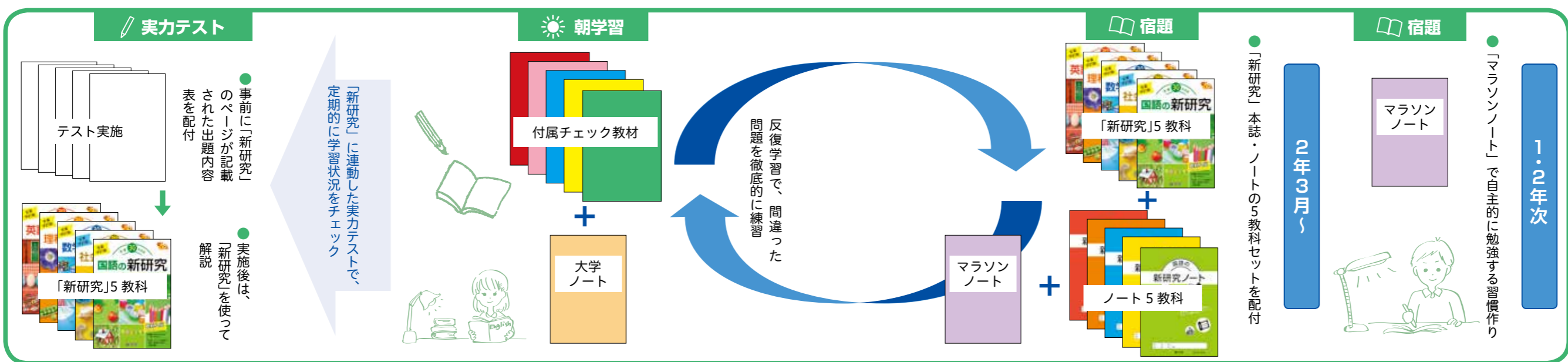
10分で答え合わせと間違えた問題のやり直しを行う。

毎日、「マラソンノート」「付属ノート」「付属チェック教材」を回収・点検します

③ 3月1回 テストの実施

「新研究」と連動した実力テストを年間7回実施。大分県内で実施される中3学力テスト(年2回)と定期テスト(年4回)を組み合わせることで、毎月1回以上テストを実施することになる。

「新研究」連動の実力テストは、事前に「新研究」をテスト範囲として示し、「新研究」学習のモチベーションにしている。実施後の答案返却時には、教科ごとに「新研究」を用いた解説を行い、次の学習へ促している。

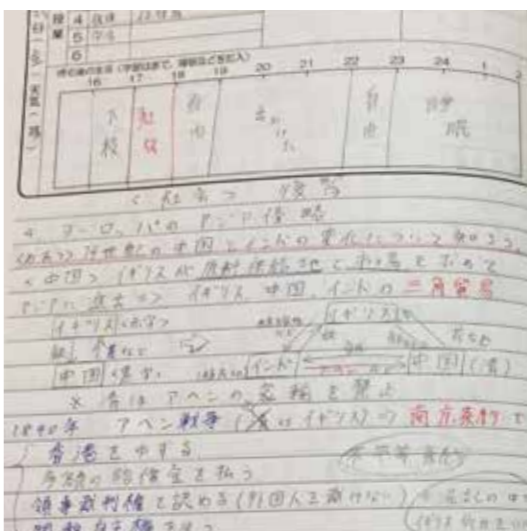


実践校の先生の声

・1年生から「マラソンノート」を使用しています。1学期に1冊で、3年間で通し番号をつけています。
・最初は、このノートをどうやって使いこなせばいいのかわからない生徒もいるので、しっかり使いこなしている生徒のノートをお手本として見せたりします。
・「マラソンノート」には、一言日記の欄もあるので、「新研究」学習のチェックをしながら、「コメント」を書き込んで返却します。
・なかなか学習が進まない生徒には、個別に声かけを行い、昼休みや放課後を利用して学習するように促します。
・3年6月までに1・2年範囲のノートを使った学習は終わらせ、夏休みは大学ノートなどに1・2年内容の2回目の学習をさせます。2学期には3年内容の学習を始め、1回目(付属ノート)・2回目(大学ノート)と、1・2年内容の復習を11月までに終わらせます。12月以降は、全学年内容の復習として本誌に書き込み、総仕上げ編にも取り組めます。
・家庭学習と朝学習の反復学習と、さらに、間違えた問題は繰り返し練習するので、子どもたちから「だんだんわかるようになってきた」「勉強が楽しくなってきた」という声があがってきます。

4	水	数	5	方程式②	p. 28~31	p. 24~27	社	14		
5	木	理	6	光と音	p. 30~33	p. 22~25	数	5		
6	金	国	6	心情と伝えよう	p. 38~41	p. 24~27	理	6		
7	土	英	6	代名詞	p. 26~29	p. 22~25	国	6		
8	日	社	15	中世社会の展開	p. 80~83	p. 60~63	英	6		
9	月	始業式	数	6	比例と反比例	p. 32~35	社	15		
10	火	第3・4章 フォロ-学習							数	6
11	水	入学式								
12	木	課題テスト								
13	金	理	7	力と圧力	p. 36~39	p. 28~31				
14	土	第1~6章 フォロ-学習								
15	日									
16	月	国	7	行動の理由・人物像をとらえよう	p. 42~45	p. 28~31	理	7		
17	火	全国学力調査	英	7	形容詞/副詞	p. 30~33	p. 26~29	国	7	
18	水	職員会議	社	4	ヨーロッパ州、アフリカ州	p. 18~21	p. 14~17	英	7	
19	木	家庭訪問①	数	7	平面図形	p. 38~41	p. 32~35	社	4	
20	金	家庭訪問②	理	8	火山と地震	p. 42~45	p. 34~37	数	7	
21	土	リーダー研修会								
22	日	第7章 フォロ-学習								
23	月	家庭訪問③	国	8	文章中の表現を味わおう	p. 46~49	p. 32~35	理	8	
24	火	前座調	英	8	前置詞	p. 34~37	p. 30~33	国	8	
25	水	家庭訪問④	社	5	北アメリカ州、南アメリカ州、オセアニア州	p. 22~27	p. 18~21	英	8	
26	木	家庭訪問⑤	数	8	平面図形①	p. 42~45	p. 36~39	社	5	
27	金	PTA総会	理	9	地層と過去のようす	p. 48~51	p. 38~41	数	8	

▲「新研究」学習の4月の予定表
休日を、特集ページの学習や、復習に充てている。



▲2年生の生徒の「マラソンノート」
授業の復習として自分で内容をまとめている。

家庭学習(予習)→朝学習→

家庭学習(復習)のスパイラル学習

愛媛県松山市での「中学セミナー」使用事例

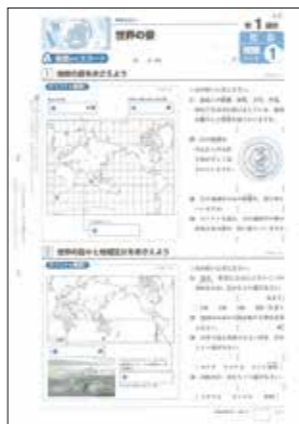


基本的な使い方

愛媛県松山市とその周辺都市では、ほとんどの学校でシート型の進学教材を使用している。その中でも多くの学校で使用されているのが「中学セミナー」で、7割近いシェアを占めている。ここでは、「学習ノート」を組み合わせて、家庭学習と朝学習で「中学セミナー」を最大限、効果的に使用している実践例を紹介する。

中学セミナー(シート型進学教材)

- 1 単元につき3シート構成のプリント教材。
- ① 問題シート⇄オモテ面は基礎基本、ウラ面は最新入試を含む入試問題で構成。
- ② 解説シート⇄問題シートの小問ごとに対応した丁寧な解説。
- ③ 解答シート⇄記述問題の答え方や別解等も詳しく紹介。



▲問題シート



▲解答シート



▲解説シート

松山市独自の取り組み

通常の3シート(問題シート・解説シート・解答シート)に加えて、「学習ノート」というフリーノートを付けて、「中学セミナー」を学習する前の予習、学習した後の復習を徹底して指導している。

納品形態

基本的にはバラのプリント教材であるが、使用計画に応じた様々な納品形態に対応している。中でも松山市では、「解説シート」と「学習ノート」を5教科で1冊に綴じて使用している学校が多く、「自分のペースで予習を進められる」「プリントを配る枚数が減って手間を軽減できる」といったメリットを挙げる先生が多い。(トシとは言っても剥ぎ取り式なので、提出の際に剥ぎ取って、最後はファイリングさせている。)

家庭学習(予習)

- 「解説シート」を見ながら、「学習ノート」のオモテ面に重要事項をまとめたり、漢字や英単語などを書いて練習する。
- 30分程度の学習。

朝学習

- 朝学習で「問題シート」を解く。前日に「解説シート」を使って予習しているので、スムーズに取り組める。
- 前日に記入した「学習ノート」は先生が点検・評価する。

家庭学習(復習)

- 「学習ノート」のウラ面に、「問題シート」で間違った問題をもう一度解いたり、理解が足りていなかった解説内容を書いて覚えたりする。

実践校の先生の声

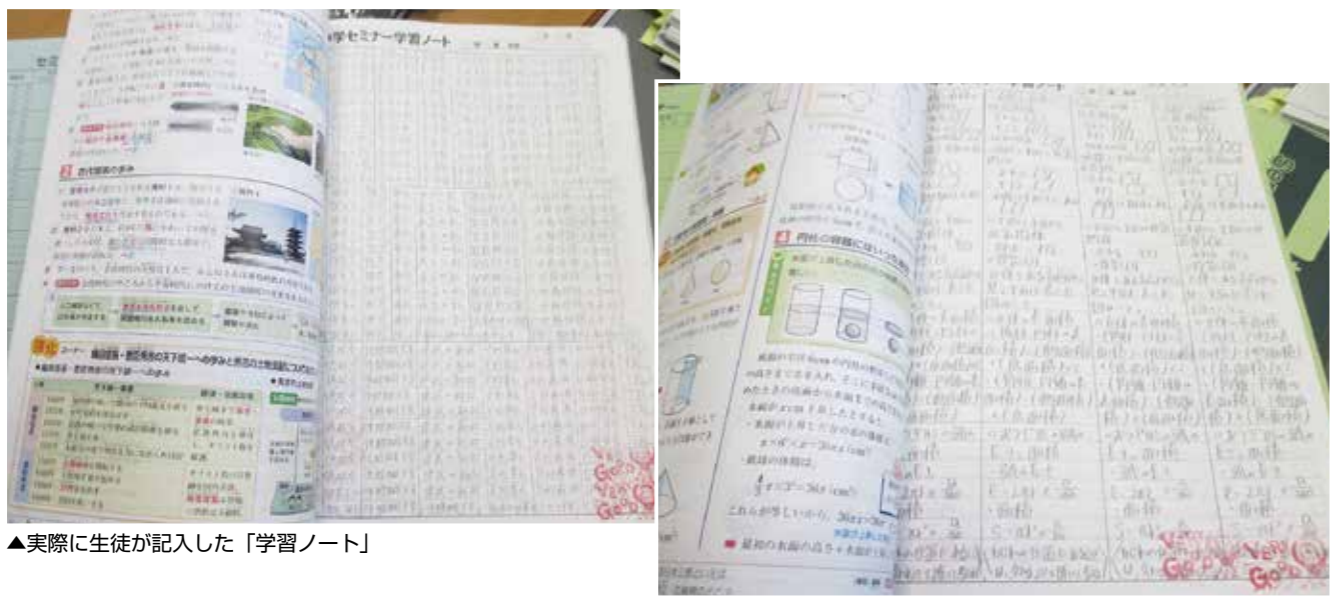
「学習ノート」のまとめ方は、セミナー学習を始める前に学年集会で説明しています。先輩の書いたノートを映像で見せることで、イメージも湧きやすく、やる気にも繋がっています。

「学習ノート」のオモテ面は、国語は漢字、社会は重要事項のまとめ、数学は解き方や公式、理科は重要事項のまとめ、英語は単語や文法のまとめを書いてある生徒が多いです。

「学習ノート」に書かせる量は、「最後の行までビッシリ」「三分の二程度」などと学校によっても様々。その年の生徒の実態に応じて決める場合もあります。オモテ・ウラの使い方も、オモテ面は必須で、ウラ面は生徒の自主性に任せている学校が多いです。

「学習ノート」のオモテ面は、低位の生徒は解説シートのオモテ面をそのまま書き写していることが多いです。できる生徒は、解説シートのオモテ・ウラの内容を学習ノートページ分に整理してまとめ直しています。

「学習ノート」の回収点検の結果をポイントにして、席替えの際にそのポイントを使えるようにしています。生徒のモチベーションアップに効果的です。



▲実際に生徒が記入した「学習ノート」

